

〔野生動物による造林木の新たな被害実態の解明に関する研究〕
押しつぶされた単木ネット内のウラジロモミ剥皮形成過程とその対策

新井一司
(緑化森林科)

【要 約】ウラジロモミの成木をシカの剥皮害から守る単木ネットが押しつぶされ、かつ、その中の樹皮が全周剥皮された過程は、オスジカの角による単木ネットの押し上げであり、単木ネットの地際部を斜めに強く押さえることにより防除可能である。

【目 的】

東京都水道局水道水源林（山梨県将監峠付近）において、ウラジロモミの成木をニホンジカ（以下、シカと記す）による剥皮害から守るため、単木ネットで囲っていたところ、その単木ネットが何かに踏みつけられたように押しつぶされ、かつ、その中の樹皮が全周剥皮されるという甚大な被害が発生した（図1）。水源管理事務所の担当によると、このような被害は初めてという。そこで、この加害過程を推定し、防除対策に活用する。

【方 法】

水源管理事務所の担当から被害の電話相談が来たのは、2017年5月2日である。被害は、1965年植栽のウラジロモミの成木、標高1800m付近において多数生じていた。複数の被害写真があるとのことだったので、その画像を送ってもらい、その被害状況から加害獣を推定するとともに、水源管理事務所の担当と意見交換しながら、被害過程を推定した。その後、水道局では、被害対策を同箇所において2017年12月に実施した。

【成果の概要】

1. 送られてきた画像から、高さおよそ1.5m以下の幹が全周剥皮されていること（図1）、剥皮された傷痕は、ツキノワグマの歯による丸ノミで削られた歯痕ではなく、平ノミで削られたような草食獣による歯痕と斜めに角を突き刺したような痕が混在していたこと（図2）、樹種がウラジロモミに集中していたことから、加害獣は、モミ属の幹に対して全周に及ぶ樹皮剥ぎを頻繁に行うシカ、さらに角の痕跡からオスジカと推定された。
2. 今回の被害木周辺のウラジロモミの中には、単木ネットが空中に浮いた状態でウラジロモミの下部が剥皮された個体（図3）、同様に単木ネットが空中に浮いて、ややつぶれたもの（図4）が見られた。これは、押し上げられた単木ネットの上部がウラジロモミの枝に掛かって落ちなかったものと思われた。以上から、食料が乏しい冬季から春先にかけて、オスジカがウラジロモミの樹皮を食べようと、まず、角で単木ネットを上方向に押し上げ、ウラジロモミの枝がある場合、単木ネットが押されて縮まり、ネットが上がった状態で、シカが全周を剥皮、その後、縮んだ単木ネットは、自重で落下したと推定された（図5）。
3. この対策は、単木ネットの地際部をアンカーなどで固定する際、単木ネットが真上に押し上げられないよう斜めに強く押さえることが重要である（図6）。

【残された課題・成果の活用・留意点】

本事例やイノシシによる広葉樹苗木の噛み切り被害など都内で発生している野生動物の新たな被害についてパンフレットやホームページで情報提供し、被害軽減に活かす。



図1 押しつぶされた単木ネットの中を剥皮されたウラジロモミ



図2 剥皮された個体の幹の傷痕



図3 別の被害木1
単木ネットが空中に浮いたもの



図4 別の被害木2
単木ネットの上部が枝にかかって
ややつぶれた形状のもの

1. オスジカの角による単木ネットの押し上げ。
2. ウラジロモミの枝がある場合、枝に当たり単木ネットが縮まる。
3. シカが全周の皮を食べつくした後、単木ネットが自重で落下。押しつぶされたように見える。



対策：単木ネットの地際部をアンカーで斜めに刺し、真上に上がらないよう強く押さえる。

図5 押しつぶされた単木ネットの形成過程とその対策

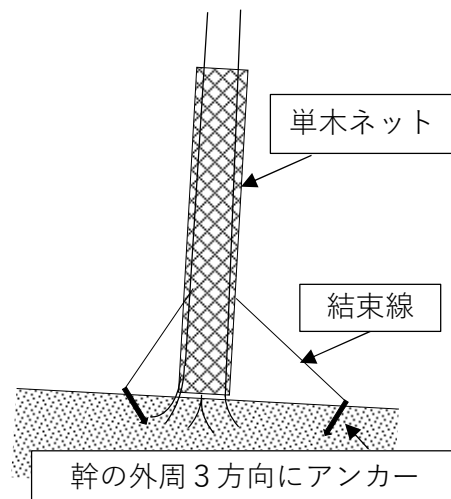


図6 対策の模式図